

ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)

2014年 大雪被害 雪かきボランティア 活動報告書

実施期間 2014年2月19日～2月25日

活動場所 静岡県小山町、山梨県北杜市

[オフィシャルサイト] <http://pbv.or.jp/>

[英語サイト／English site] <http://peaceboat.jp/relief/>

平常時の取り組みが活きた支援活動。

2014年2月8～9日、14～16日と2週に渡り、関東・甲信・東北を中心に大雪が発生。各地で過去最深積雪を記録し、死傷者、集落の孤立、停電、交通機関の麻痺、駅舎や商店街の屋根崩落等の大きな被害が出ました。

これに対して、ピースポート災害ボランティアセンター（以下、PBV）では、雪かきの人手が不足している地域への支援を決め、ボランティア派遣を行いました。被害地域が複数の県をまたぎ広範囲に及ぶ中で、いかに迅速に活動地の選定を含めた体制作りが出来るかが大きなポイントでした。

PBVは各地への先遣隊による調査と同時並行で、静岡県ボランティア協会が開催する図上訓練に参加した事によって出来た繋がりや、『震災がつなぐ全国ネットワーク』との情報交換により、人手が特に手薄になりそうな地域を選定。静岡県小山町での活動を開始しました。

除雪作業自体もトレーニングプログラム受講者や、ボランティア経験者の活躍によりスムーズに行えた事で予定より1日早く作業が終了。山梨県北杜市での活動も行いう事が出来ました。情報収集からボランティア作業まで幅広い範囲で、平常時の取り組みが活きた支援活動となりました。

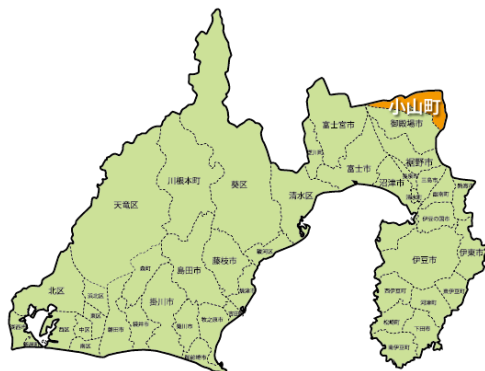


静岡県小山町、山梨県北杜市の被害状況

一時は1都4県20箇所以上の災害ボランティアセンターが立ち上がり、各地でボランティアによる除雪の支援が開始されました。一方で、複数の地域が同時に被災した事や、被災地域の情報不足や都市部からのアクセス等の条件により復旧作業が遅れている地域もありました。

静岡県小山町

富士山須走口登山道の起点となる場所で、主に活動を行った須走地区では、積雪の多い所で約54cm。吹き溜まりでは100cmを越す積雪となり、道路閉塞の影響で4地区が一時孤立しました。



人口 19,849人(7,537世帯)
孤立要援護者 78名/70世帯/4地区

山梨県北杜市

八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、瑞牆山といった名山に囲まれた山梨県内で面積が一番広い市です。降雪は100cmを越え観測史上最大過去最深積雪を大幅に塗り替える積雪を記録しました。



人口 48,753人(20,742世帯)
死者 1名

プロジェクトの概要

特に多くの雪を降らせた2月16日以降、交通網の把握や、先遣隊スタッフの安全を確保する為に慎重に情報収集を始めました。一方で雪害への対応は遅すぎると無駄になりかねません。出発のタイミングを見極める為に、これまで構築してきた様々なネットワークが上手く活かされました。

また、今回は現地コーディネーターとボランティアリーダー以外は基本日帰りでの参加を呼びかけ、東京からは毎日ボランティアワゴンを運行する事により、参加者への負担を軽減。それにより短期間の間に一定の人数を確保する事が出来ました。

ボランティア派遣人数 : **27**名 / 日別のべ活動人数 **45**名

雪かき実施件数 : **7**件

(その他、小山町雪害被害世帯支援センター運営サポートを実施)



ボランティア参加者の声



「もう諦めていて、溶けるのを一人で待とうと思っていました。そんな中、雪かきをしに来てくれて本当にありがたかったです」そんな言葉を残してくれた方がいました。辛い時に助けに来てくれたという安堵感から来たものだと思います。ボランティアを行う意義というのは雪をどけてその場所を綺麗にするという表面的なことよりも、困ったときに助けてくれる、支えてくれるという内面的な心の支えになるという方が重要であることを肌で感じる事が出来ました。

小坂和彰さん(宮城県在住 30歳)



活動中に家に招かれ、「普段、会話する相手もそんないないからねえ」という言葉を聞き、どんな理由であれ、足を運んで会話ができたことが、一番良かったことだと思いました。最後お別れする時も、涙を出して「ありがとう」と何度も言っていたら、来て良かったと思えました。困っている人がたとえ一人でもいるなら、その一人を助けることが必要なんだから実感しました。

畠中望香さん(東京都在住 21歳)

活動カレンダー

2月	8日～9日 14日～16日	大雪が発生
	19日	先遣隊が出発。山梨県甲府市、中央市、南アルプス市を調査 小山町雪害被害世帯支援センター開設
	20日	東京都奥多摩町、静岡県小山町を調査。小山町での活動を決定 Facebookにて先行ボランティア募集を開始
	21日	公式HPにてボランティア募集を開始。活動準備
	22日	小山町での活動開始
	24日	小山町雪害被害世帯支援センター閉鎖、小山町での活動を終了
	25日	北杜市へ移動。北杜市にて活動。活動終了

地元の方々からの声

「雪が無くなったのもそうだけど、久しぶりにお喋り出来たのが嬉しかった」

山梨県北杜市で支援に入ったのは80代の横森さんのお宅。旦那さんは数年前に他界され、現在は一人暮らしで、近くに住むお兄さんの介護をしながら生活されています。大雪が降った後、玄関を開けたら目の前に雪の壁が出来ており、家から出ることも出来なかったそうです。数日経った時に、近隣に暮らす女性がひとりが通れる道を作って様子を見に来てくれました。普段は配送サービスを利用して日々の買い物をしていましたが、大雪のせいでそれも止まり、代わりに買い物に行ってくれるなどのサポートをしてくれたそうです。



「近隣の方のおかげでなんとか基本的な生活は維持できましたが、兄が利用している福祉車両が入ってこれるだけの道はなく困っていました。自分一人で雪かきをするにも、溶けるのを待つにも量が量なので、いつまでこの状態が続くのか想像もつかなかった。ただ我慢してやり過ぎすしかないのかな」と諦めかけていたそうです。

そんな所にボランティアが来る事になり、最初は「道路から玄関までの約70m。全部じゃなくても途中まででも車が入れば…」という位に思っていたそうです。しかし終わってみれば玄関の直ぐ先まで車が入れるようになり本当に喜んでくれました。また近隣に住む人は少なく、普段からあまり人と話す機会も少なくなったそうで、休憩時には、雪が降っていた時の様子から、身の上話まで様々な話をしてくださりました。帰り際には「雪をどけてくれた事もそうだけど、久しぶりにお喋り出来たのが嬉しかったよ」と仰っていました。



今回の雪害において、小山町地域包括支援センターからの高齢者世帯の要援護情報や地域内の自治会長、民生委員の方々の高齢者世帯や障がい者世帯等の情報の提示が、センター運営に役に立ち、改めて地域の中のつながりの重要さを実感しました。

また、ピースボートの皆様には、人手が多く必要な被災場所への継続的な派遣を可能にいただいたことで、予想よりも早くすべてのニーズの解決に結びつけることができましたと感じております。

センター運営において、地元社協職員だけで運営していくには限界があり、情報や視野が狭まってしまう中で、外部（県社協・近隣市町社協・関係団体等）からの応援や協力の大切さを、再度認識させていただきました。いつでもどんな災害が起こるかわからないので、持ちつ持たれつ、お互いが協力し合うことが大切だと感じました。

小山町社会福祉協議会 地域福祉プロデューサー 関 智久 氏



ご協力いただいた企業・団体（順不同、略称表記）

小山町社会福祉協議会／北杜市社会福祉協議会／震災がつなぐ全国ネットワーク／ Share Happiness 倶楽部

活動を振り返って



大雪被害 雪かきボランティア
ボランティアコーディネーター

垣貫紀彦

自分自身、昨年の水害被害地域への支援を何度か経験しましたが、今回、災害の種類によって状況が変わるという事は頭でわかっている、実際に行くと気がつく事も多々ありました。今回特に印象に残ったのは、各地の災害VCがボランティアが支援する範囲を要援護者世帯に定めていることでした。

今回は各市町が丸ごと大雪の被害を受けており、大雪の影響を受けた全世帯を支援しようと思うと並大抵の人数では完結出来ません。なので要援護者世帯ではない場合に、ボランティアによる支援が来ないという事を伝えることも必要があると感じました。

自分が自宅等必要な場所を除雪する必要があるという事は勿論ですが、そこだけを除雪したとしても、状況はあまり改善されません。今回のような大雪になると、少なくとも自分が関わる“地域”の除雪をする必要があります。それは『個人』や『家族として』の備えの必要性と同時に、『地域として』どういう備えをしていくかという考え方が必要になるという事だと思いました。

ボランティア活動も、今回は都市部から近いという事もあり、基本日帰り、毎日東京からボランティアワゴンで送迎をするという参加条件で行いました。ボランティアが参加しやすいよう、状況に合わせた柔軟な対応が出来たと思います。ボランティア派遣が始まってからは気温が比較的高かった事もあり、毎日のように落雪がありましたが、経験のあるボランティアリーダーの活躍もあり怪我もなく活動出来ました。

関係団体との顔の見える繋がりとそれを元にした情報収集、状況に合わせたボランティアの受入体制作り、トレーニングプログラムを通じたボランティアとのネットワーク拡大等、東日本大震災からの教訓を元に行ってきたPBVの取り組みが少しずつ形になってきていると感じました。

「サポート会員」になって PBVの運営を支えてください。

東日本大震災への被災者支援・復興支援をはじめ、国内外の自然災害における救援活動の初動資金、災害ボランティアの人材育成プログラムの実施には、PBVの運営に対する継続的な支援が必要です。皆様からの会費は、PBVの運営を財政的に支える基盤になります。

●サポート会員（1年間）

個人 一口 5,000円

団体 一口 100,000円

※二口以上のご協力も可能です。

●会員特典

- ・季刊誌「START」と年次報告書をお送りします。
- ・各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- ・会員同士の集いの場にご参加いただけます。

●ご協力方法の詳細は

<http://pbv.or.jp/support-member.html>

ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)

PBVは、東日本大震災への継続的かつ大規模な支援活動を展開するため、2011年4月に、国際NGO「ピースボート」が設立した一般社団法人です。ピースボートが1983年より行ってきた国際交流の船旅、そして1995年の阪神淡路大震災以降の国内外の災害支援のノウハウとネットワークを活かし活動しています。現在は、宮城県石巻市での復旧・復興支援を中心に、ボランティア・リーダーの育成などにも積極的に取り組んでいます。

ホームページ <http://pbv.or.jp/>

2014年 大雪災害 雪かきボランティア 活動報告書

発行：一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター
編集：垣貫紀彦、上島安裕
発行日：2014年5月2日

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。
〒169-0075東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A
TEL:03-3363-7967 FAX:03-3362-6073
E-MAIL: kyuen@pbv.or.jp
URL:<http://pbv.or.jp/>